

第十六回企業活性化研究分科会・議事録

＜第十六回 2008年11月22日（土）時間：13：30～17：00 於：専修大学(神田校舎)＞

1. 参加者：山本、井端、大野、木村、古山、渡邊、横山、星野、菅原、宮川、齋藤
2. テーマ：企業活性化に関する研究

3. 発表内容

テーマ：『*継続企業の前提に関する分析 (TYPE I)*』

- ・ 報告者：山本洋信
- ・ 配布資料：13枚
- ・ 報告内容の要旨

本報告は、株式会社ノースの継続企業の前提について分析したものである。同社は、プリント配線板等の特許製品の開発、販売及び技術提供の事業を柱とし、東京証券所マザーズに上場していた会社である。上場した翌年の平成15年度から当期純損失を5億2,372万円計上し「継続企業の前提」が付され、平成17年11月15日をもって上場廃止となった。同社は、自社工場の拡大、多額の研究開発などの規模拡大路線へ舵を取ったが、これに見合う売り上げが立たず、多額の当期純損失を計上し、現在は倒産に至っている。

- ・ 報告者：杉本敦彦（専修大学大学院）
- ・ 配布資料：7枚
- ・ 報告内容の要旨

本報告は、株式会社エス・サイエンスの継続企業の前提について分析したものである。同社は、ニッケル事業を柱とし、東証一部、大証一部に上場している会社である。2003年から損失計上の継続から「継続企業の前提」が付されている。しかし、2006年には11億9,532万円の当期純利益を計上したことにより、「継続企業の前提」がはずされた。同社は、資金を新株の発行によりまかない、倒産を免れていると考えられる。

4. その他

次回の日程

- ・ 2月22日（日）専修大学（神田校舎）772教室
- ・ 3月14日（土）専修大学（神田校舎）772教室

（文責：齋藤幸雄）